

県立熊野高等学校

実施日時 令和元年10月27日(日)

参加者 生徒548名、教職員50名、地域住民等約350名 計約948名

実施内容 避難訓練、炊き出し・配膳訓練、搬送訓練、消火訓練、防災資器材取り扱い訓練、ロープワーク、煙体験、パーティション作成訓練等

ねらい

1、生徒の防災意識の向上をはかり、地域防災の担い手として自助・共助の精神を尊び、地域で自立し、共生できる人材を育成する。

2、上富田町役場・田辺市消防本部上富田分署・田辺警察署・地域医療機関等の関係機関及び地域と連携し合同防災訓練を行い、非常災害時には本校体育館や看護科棟の施設・設備等を避難場所としてより有効に活用できるよう準備を進める。

3、合同防災訓練を継続的に行うことにより、地域防災力の向上に貢献し、防災ひとづくりを推進する。

主なプログラム

1、避難訓練(シェイクアウト訓練)



2、炊き出し・配膳訓練



3、搬送訓練



4、消火訓練(消火器を用いて)



5、防災資器材取り扱い訓練



6、ロープワーク



7、煙体験



8、パーティション作成訓練



概要

1、震度6強を想定した地震避難訓練。訓練用の緊急地震速報を受信し、3分間の揺れの後、事前に想定した経路〔中庭を通らない〕を通過して避難する。グラウンドでの点呼確認、担任⇒学年主任⇒教頭への報告を行う。

2、心肺蘇生ダンスをサポーターズリーダー(本校クラブの1つ)が地域住民に対してデモンストレーションする。

3、上富田町民の避難訓練。上富田文化会館に集合していた住民代表の避難と並行してサポーターズリーダーが本校周辺地区住民の避難誘導

を行う。

4、受付を終えた地域住民とともに本校グラウンドにて、放水訓練を見学する。並行して本校サポーターズリーダー生徒と住民代表が協力して炊き出し・配膳訓練を行う。

5、防災訓練 本校各学年と地域住民の4グループのローテーションで以下の内容を体験訓練。時間の関係で代表者が体験するものがあった。

- 1.煙体験
- 2.ロープワーク(陸上自衛隊の指導)
- 3.土のうづくり・がれきからの救出訓練
- 4.消火訓練(消火器を用いて)

参加者感想文

・訓練では実際にロープワークをしたり、消火訓練をしたり、実際に火災が起こったときを想定して煙の中に入ったりいろいろな体験訓練ができて良かったです。災害時に備えて日頃から準備をしていないといざという時に避難できなかったり大変なことになるので、いつ地震や津波がおこっても大丈夫なように準備をしておくことがどれだけ大切かわかりました。

・防災訓練をとおして、普段から避難場所を意識したり、すぐに逃げられるように荷物をまとめたり、家族と事前に話し合っておくことなどの重要性を再確認しました。今日の様々な訓練の経験を大切に、もしもの時に備えたいと思います。

成果と課題

【成果】

本校は上富田町唯一の高校で、上富田町と町づくり地域連携協定を結び、地域の方々と積極的な交流を行っている。町との合同防災訓練については毎年の恒例行事となっており、熊野高校生と地域住民の防災意識の向上に大きな役割を果たしている。特にサポーターズリーダー部については、普段から地域のお年寄りの声かけやさまざまなイベントでのボランティア活動を行っている。このため、防災訓練においても地

域の方々と様々な形で協力し、災害時における地域と高校のあり方の良い例となっている。その他の生徒にとっても、地域住民の方と大規模な訓練に参加することで、自助・共助の精神を学び、自身の安全に加えて、災害時に高校生が地域において果たすべき役割について学ぶ良い機会となっている。

【課題】

大人数の訓練であるので、事前の関係機関との打合せや校内の調整に時間を要したが、今年も大きな問題は起こらずに終了することができた。一方、合同訓練の中で本校生徒の主体的な

取り組みをどのように充実させていくのかが毎年の課題である。訓練はサポーターズリーダー部が大きな役割を果たしているが、サポーターズリーダー部員以外の生徒の活動を受け身的な体験訓練のみに終わるのではなく、主体的に地域防災の担い手となるよう、さらなる充実を検討していく必要がある。